

2024 夏休みおすすめ本 3・4年生

『ぼくは本のお医者さん』022ミ

みやま さくら／文 佼成出版社
こせいしゅっばんしゃ

こわれた本を修理する“ブックドクター”の齋藤英世さん。ページがはずれてしまった本や、やぶれたりシミがついてしまった本を、今までに5,000冊以上も治療してきました。齋藤さんの修理に対する考え方は、本や人への愛情にあふれています。読んだ後は、もっともーっと本を大切にしたいと思える1冊です。

『なんで、せんそうおわらないの?』319ナ

NHK ネットワーク報道部／編 青志社
せいししゃ

だれも幸せにならない、みんなが苦しい思いをする。それなのに、なぜせんそうするんだろう? どうしてせんそうは終わらないの? 残念ながらこの本を読んだからって「なるほど」と答えが出るわけではありません。ただ、いろんな事を深く考えるきっかけになると思います。ぜひ、いろんな立場でものを考える人たちのことばに耳を傾けてみましょう。

『ひと粒のチョコレートに』588サ

さとう きよたか junaida／絵 福音館書店
ふくいんかんしょてん

ひと粒たべると、口の中でとけて、あまさがひろがるチョコレート。チョコレートは、カカオという植物の種・カカオ豆から作られています。今ではどこのスーパーマーケットでも売っていて、いつでも食べられるチョコレートですが、人類がカカオに出会い、チョコレートを作りあげるまでに、1万年近い年月がかかったそうです。カカオがどのようにチョコレートへ変身したのか、そのひみつを一緒にさぐってみませんか?

『幽霊屋敷レストラン』913カ たかい よしかず／絵 童心社

この本には、12人の異なる作家によって書かれた怪談がおさめられています。戦争で死んだ人のかみの毛がひきおこす怪談や、病院に入院したにもかかわらず放っておかれ、高熱にうかされながら死んでいった患者の話など、あつい夏でも背すじがスーッとさむくなるお話がいっぱいです。この本が気に入ったら、他にもこわ〜いレストランシリーズがありますのでそちらもどうぞ!

『ゆうすげ村の紙すき屋さん』913モ

もち くみこ かどた りつこ こうだんしゃ
茂市 久美子／作 門田 律子／絵 講談社

ゆうすげ村の山の中、小さな古い工房で和紙をすいているのは、かえでさんです。今はもう、つくられていない「やまが和紙」のことを知ったかえでさんは、ゆうすげ村で紙すき屋さんをはじめました。かえでさんの作る紙をもとめてやってくるのは、ふしぎなおきゃくさんばかりです。みなさんの暮らす小川町は「和紙」が有名です。とても身近に感じながら読める心あたたまるとおはなしです。

『地球のことをおしえてあげる』4Eチ

ソフィー・ブラッコール／作・絵 横山 和江／訳 鈴木出版
よこやま かすえ やく すずきしゅっばん

「宇宙からくる、だれかさんへ。地球がどんなところかしてる? ぼくがきみに、おしえてあげる。」私たちのくらす地球、みなさんだったら、どのようにしようかしますか? 地球には、陸地と水(海)があり、陸地のいたるところに人が住んでいます。色々な家があり色々な家族が住んでいます。わたしたちにとってかけがいのない地球とそこにくらす人々のことをいっしょに考えてみませんか。

